

第49回 全日本花いっぱい長岡大会への取り組み

復興は、花の輪・人の和で、まちづくり
長岡市 市制100周年・合併1周年・復興1周年



花の輪

第35回全日本花いっぱい長岡大会を開催して以来、花に対する関心が高まり、花いっぱい運動の輪も着実に広がっています。

人の和

昨年の7.13 水害、中越大地震と度重なる災害に見舞われた長岡市民を勇気づけてくれたのは全国からの温かい援助や激励でした。

まちづくり

その思いの強さから、花いっぱいの活動を通して、震災から力強く復興する長岡の姿を全国へアピールしていきます。

来年5月、第49回 全日本花いっぱい長岡大会がハイブ長岡、千秋が原ふるさとの森を会場に開催されます。

平成4年の第35回以来、2回目の開催となります。

災害を克服する、市民の熱意と創意を結集し、
長岡の心を全国に発信しましょう！



“愛・地球博”視察に寄せて

大阪万博から35年、技術の進歩は素晴らしく当時のロボットはアーム形で習字をしたり、コマの刃の刃渡りや卵を掴んだり等で、人間と同じことが出来ると感心したものであったが、この博覧会は二足歩行や人との会話が出来るまでになった。

まさに手塚漫画で、空想の世界だったアトムロボットが、現実となる日は近いと思う愛知万博だった。マンモスは今、何を人間に伝えようとしているのだろうか・・・

吉野利夫 記 (詳しくはホームページを)



趣味の園芸フェア……………5月28日(日)
長岡市花いっぱいフェア2006
花の音楽会(リリックホール)
花の美術展覧会(県立近代美術館)

5月27日(土)・28日(日)

主催 全日本花いっぱい連盟

第49回全国花いっぱい長岡大会実行委員会

第49回全日本花いっぱい長岡大会実行委員会事務局

〒940-8501 新潟県長岡市幸町2-1-1 TEL.0258-39-2230

長岡市役所 都市整備部公園緑地課内 <http://www.city.nagaoka.niigata.jp>

*** 雪下ろしの雷 豆知識 ***

11月の初冬の頃に発生する雷、北陸地方では雪が降る前兆の合図として「雪下ろしの雷」、「雪起しの雷」といいます。雪が降っていなくても全天に雲が広がり日中でも暗い感じの時、また細かい雪、あられが強く降っている時ありますよね。そんな時は相当強い雷雲が発生しているそうです。天気予報で「大気不安定」との言葉があれば雷の発生が予測されるということなので、注意深く聞き参考にしたいですね。雷鳴が聞こえた時には、すでに落雷の危険域に入ってしまったら、上空が晴れていてもそこに落雷する危険があるといえます。そんな時の避難場所は自動車などで、窓は閉め、車体・ハンドル・電装機器には手を触れず、膝の上。注意する点は立木の側には近づかない。などの様々な避難方法がありますが、絶対に安全ということはないようです。[参考資料：落雷対策 <http://www.aobaya.jp/chishiki.htm>]

雷の発生は防ぐことは出来ません。落雷による日本での死傷者は、年平均13.8人。(1994~2003年データ、警察白書より)日ごろから雷の知識を身につけておけば災害防止に役立ちます。特にこの季節、気を付けましょう。

かんぼれ！中越
かんぼれ！地球号。

UQ記

●各地で頻発する地震、大味になった天候、地球が不気味です。気象庁は十一月十一日、世界の十月の平均地上気温が、平年より0.82℃高く、統計上最高になったと発表しました。心落ち着いて、しつとりとした四季の移ろいを感じたいものです。

●震災の復旧も豪雪地帯の宿命か、二度目の冬を前に、未だ避難指示が解除されない地区もあります。あの清らかな棚田の風景や、童達の弾んだ声を早く聴きたい。

山河花園

●中山間地に致命的な打撃を受けた忌まわしい中越地震から一年。信濃川は濁り、川原の石も土砂で汚れています。山間部に於ける土砂災害は、川の汚染により平地に及び、やがて海洋汚染につながり、生態系の変化や食物連鎖が関わります。

●全国に広がる中山間地の維持保全は、高齢化した農の民の力で辛うじて保たれています。公共事業で全てをまかなう事は不可能です。住民の安全と、国土の保全に向け、抜本的な対策が急がれます。



再生紙を使用しています